



長小だより

夏
休
み
号



子どもと褒めることの大切さについて

先日、東海地方の梅雨明けが発表され、いよいよ夏本番になります。この暑さの中、子どもたちは運動場で元気に走り回ったり、友達と仲良く遊んだりしている姿がキラキラして、とても素敵な光景です。本日で令和3年度の1学期が終了しました。1年生は72日間、2年生から6年生までは71日間、運動に勉強に一生懸命に取り組むことができました。多くの学びと気付きのある充実した1学期になりました。

さて、明日からは子どもたちがとても楽しみにしている42日間の夏休みに入ります。長い休みですので、生活のリズムを崩さないよう、まずは規則正しい生活（早寝、早起き、朝ご飯）を心掛け、楽しい思い出をたくさん作ってほしいと願っています。

先日、ある講演での「子どもを褒めることの大切さ」についてのお話を見つけたので、その一部を紹介합니다。

「育てる」はローマ字で「SODATERU」。頭文字の「Sをとってみて」と。

「ODATERU（おだてる）」もちろん、甘やかすことではありません。

「子どもたちのやる気が出るように褒め、可能性を伸ばしていくことが大切です」と。

「おだてる」を辞書で引くと「あることをさせようという意図をもって、人を盛んに褒めていい気にさせる」とありました。ある調査結果によれば、褒められると金銭報酬を得たときと同じ脳の部位が活性化するそうです。褒め言葉は、目に見えない贈り物に等しいと言えます。また、運動機能も褒めると、より上手に習得できることが成人のトレーニング実験で証明されています。

また、褒め方も大事になります。①すぐに褒める②結果より過程を褒める③他者と比較しないなどが挙げられます。人は「見ようとするものしか見えない」と言われています。忙しいと見えるものも見えなくなり、見えるものが少なくなりがちになります。私たち大人が、子どもたちと向き合う時間を意図的につくって、見守る努力を怠らないようにしていくことが大切です。

夏休み中は、普段とは違った体験をしたり、学校の勉強以外のことを学んだりするのに大変よい機会となります。それとともに、親子の絆はもちろんのこと、親戚や地域の方々との交流を深めることで、お子様のよさを再発見し、褒めて自信をつけさせてあげられたらと思います。

最後になりましたが、1学期間、大きなけがや事故もなく、子どもたちが元気で無事に終業式を迎えることができたのも保護者の皆様、地域の方々のお陰であると思っています。心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。9月の始業式には、心身ともにひと回りたくましく成長した子どもたちに会えるのを教職員一同、楽しみにしております。

【 文責 校長 森田浩基 】



5年生 陶芸教室



2年生 ザリガニ

外部の方を講師にお迎えして、陶芸教室（7/2）や、生活科（7/5）を行いました。また、長久手市役所の環境課の方からは、ごみ減量・分別について講義をしていただきました。専門的な知識をもつ方のお話は、子どもたちの学習意欲を高めること、また、気付きを深めることにつながります。今後もそのような機会を大切にしていきたいと思ひます。

おしらせ

☆ 8月10日（月）から16日（月）までは、学校閉校期間となります。緊急の場合は、長久手市教育委員会（0561-56-0626）に連絡をお願いいたします。

☆ 長久手小学校ホームページ「PTA」に、1学期に配付したみのりの職員紹介ページを掲載しました。掲載期間は7月30日（金）までです。